

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	石川 信一 (いしかわ しんいち)	所属	宮崎大学
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 児童青年認知行動療法研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>                     会員     <b>10</b>名 (うち認定心理士     <b>2</b>名)                      非会員   <b>22</b>名 (うち認定心理士     <b>0</b>名)                 </p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>                     児童青年認知行動療法研究会では、年に1回程度の研究会を定期的に行い、最新の研究についての発表や参加者同士の交流の場を設けてきた。過去に開催された研究会はすべて東京を中心とした関東方面で行われてきたが、今回は日本心理学会の年次総会が大阪で開かれることもあって、その前日に日程を合わせる形で初めて本研究会を関東以外の会場で開催する運びとなった。                 </p> <p>                     当日の参加者は例年に比べ若干少なかったものの、関西地域の専門家に加えて日本心理学会に参加する他地域の専門家も多く足を運んで頂き、これまでにあまり交流する機会がなかった参加者同士が新たにネットワークを拡大することができた。                 </p> <p>                     研究会では3名の講師から子どもの認知行動療法に関連した最新の研究成果が報告された。今回の研究会では通常の学会等よりもフロアとの討論に多くの時間を費やしたことで、講師と参加者の相互作用の機会を十分に確保することができた。また、参加者同士が関心を持つテーマごとに分かれて討論を行う分科会の時間を設定し、学校臨床分野や精神保健分野といった個別の領域についてさらに詳細なディスカッションが行われた。                 </p> <p>                     本研究会では、最新の研究成果を参加者に向けて発信する機会が得られたことに加え、子どもの認知行動療法に関するネットワークがあまり構築されてこなかった関西地域における専門家間の相互交流の促進に貢献することができた。研究会終了後には新たに知り合えた参加者同士が具体的な研究プロジェクトの立ち上げについて議論したり、情報や資料の問い合わせをお互いに行っている様子が見受けられた。次年度以降の本研究会の活動として、こうした試験的なプロジェクトの予備研究を参加者で検討する機会を提供したり、インターネット等を通じた情報発信の役割を担う試みに新たに組み込んで行く計画である。                 </p>		